

2019年度 省エネ大賞

応募予定票

2019年5月10日

一般財団法人 省エネルギーセンター
会長 藤 洋作 殿

(代表応募者) 住所 東京都港区芝浦〇丁目〇番地

事業者名 株式会社〇〇〇 △△△工場

代表者(役職) 取締役本部長

代表者(氏名) 省エネ 太郎

2019年度省エネ大賞に下記の応募を予定しています。

応募テーマ名:	〇〇〇による〇〇〇省エネ活動の展開	共同応募の予定がある場合は必ず記入してください。
共同応募者(予定)		
応募部門	1) 省エネ事例部門 小集団活動分野以外 () 小集団活動分野 (<input checked="" type="radio"/>) 2) 製品・ビジネスモデル部門 製品 () ビジネスモデル () ※該当する応募部門に〇印を記載	小集団活動分野の応募か、それ以外かを明示下さい。
概要:(応募内容を簡潔明瞭に記載)	簡潔にまとめてください。	

連絡先 氏名 省エネ 次郎
部署、役職名 △△△工場 管理部 係長
TEL 03-3123-4567
FAX
E-mail shoene_jiro@〇〇〇.co.jp送付先: 一般財団法人 省エネルギーセンター
省エネ大賞事務局

E-mail: taisho@eccj.or.jp

受付年月日: 事務局記載:
2019年 月 日

2019年度 省エネ大賞

応募申請書

2019年 6月 1日

一般財団法人 省エネルギーセンター
会長 藤 洋作 殿

共同応募の場合は、応募される全ての事業者の書面と捺印が必要となります。
一枚に複数事業者をまとめても、事業者毎に書面を作成してもどちらでも結構です。

法人格も含めて、正式名称を正確にご記入下さい。

「代表者」は社長でなくても、部門長以上(本部長、工場長、プロジェクト責任者等)の管理職で結構です。
また、様式4と同一の方でお願いします。

【応募者】

郵便番号

〒 108-0023

住所

東京都港区芝浦〇丁目〇番地

事業者名

株式会社〇〇〇 △△△工場

代表者(役職)

取締役本部長

代表者(氏名)

省エネ 太郎

(印)

応募形態

① 単独応募

② 共同応募

(共同応募の場合、ファイル別シート「共同応募役割記入シート」の記入が必要です)

単独応募か、共同応募かを明示下さい。

(共同応募の場合の代表事業者名)

共同応募の場合は、「共同応募役割記入シート」を合わせて提出下さい。

捺印は代表者の印と社印が必要です

2019年度 省エネ大賞に

申し込みます。

応募部門:

1) 省エネ事例部門

2) 製品・ビジネスモデル部門

中小企業者に該当

小集団活動分野の応募か、それ以外かを明示下さい。

1) 該当する場合はお忘れなく記載下さい。

の事項を記載し

応募対象種別:

① 小集団活動分野以外

② 小集団活動分野

2次審査方法(小集団活動分野):

① 発表審査

② ビデオ審査

応募テーマ名:

〇〇〇による〇〇〇省エネ活動の展開

2) 製品・ビジネスモデル部門に該当する場合は、下記の事項を記載し

応募対象

応募内容を端的に示す、分かり易い名称にして下さい。

② ビ

小集団活動分野の場合は、2次審査方法を「発表審査」・「ビデオ審査」のどちらから選択下さい。

応募テーマ名:

型番・型式:

市販開始年月日:

省エネルギーセンター受付(事務局記載欄)

受付年月日

2019年 月 日

登録番号

備考

2019年度 省エネ大賞

共同応募役割記入シート

応募テーマ名 〇〇〇による〇〇〇省エネ活動の展開代表事業者名 株式会社〇〇〇共同応募者名 A B C株式会社、あいうえ株式会社

単独応募の場合は
当シートの記入は不要です

事業者名	業務分担	備考
株式会社〇〇〇	統括管理者 省エネルギー化の計画や進捗管理、対策実行のための建物利用者との調整や周知を行う「エネルギー管理委員会」の主幹を担い、省エネ・施設運用管理責任者として、省エネ効果の最大化検討、関係者との連絡会の開催・運営等、全体最適化を行う。	
A B C株式会社	設備担当者 省エネルギー対策の具体的な立案、実施、検証、見直しを行う「施設管理委員会」において、実データに基づく最適機器の選定を担う。	
あいうえ株式会社	運用管理者 各事業者から設備管理業務の委託を受け、設備の各種点検、運転、維持管理から、運用改善の検討や対策の実施を行う。	
	<p>・共同応募の場合は、当様式での申請が必須です。 ・できるだけ具体的に、各々の役割を記載下さい。</p>	

※「省エネ事例部門」の場合は、省エネ活動における主たる業務、「製品・ビジネスモデル部門」の場合は開発における主担当、役割等を記載下さい。

2019年度 省エネ大賞

応募者概要・連絡先

応募テーマ名			
応募部門		部門	
応募者概要・連絡先（代表）	事業者名	担当者	氏名
	業種		部署
	事業内容、主要製品・サービス（※1）		役職
	資本金（※1）		E-mail
	従業員数（※1）		TEL
	中小企業者（※2）		FAX
	備考		〒
応募者概要・連絡先（共同）	事業者名	担当者	住所
	業種		氏名
	事業内容、主要製品・サービス（※1）		部署
	資本金（※1）		役職
	従業員数（※1）		E-mail
	中小企業者（※2）		TEL
	備考		FAX
応募者概要・連絡先（共同）	事業者名	担当者	〒
	業種		住所
	事業内容、主要製品・サービス（※1）		氏名
	資本金（※1）		部署
	従業員数（※1）		役職
	中小企業者（※2）		E-mail
	備考		TEL
審査候補地 現地確認	会社・事業所・建物名等	〒	住所
	〒		住所
	住所		住所
	最寄駅名		住所

共同応募の場合、事務局からは基本的に、代表の担当者の方だけに連絡を行います。総ての応募者を取りま
とめていただきます。

「担当者」は、役職等にこだわらず、実務担当として、事務局の問い合わせ等に対する的確、迅速に対応可能な方を選出して下さい。

共同応募者数が当フォーマットで足りない場合は、「行」をコピーで加えるのではなく、シート全体をコピーして、別シートを作って入力して下さい。

予定で結構ですので、忘れずに記載をお願いします。

※1地方自治体等の場合、記載不要。

※2中小企業者に該当する場合、“○”を記載。

2019年6月1日

2019年度 省エネ大賞

応募要件確認書

応募テーマ名：〇〇〇による〇〇〇省エネ活動の展開

2019年度省エネ大賞の応募内容について

応募対象について

1. 本事業の目的を損なうような行為、又は虚偽の記載等不正行為
2. 他の特許等の侵害及び係争中

はなく、法令遵守していることを申告します。

法人格も含めて、
正式名称を正確
にご記入下さい。

(応募者) 〒	108-0023
住所	東京都港区芝浦〇丁目〇番地
事業者名	株式会社〇〇〇 △△△工場
代表者(役職)	取締役本部長
代表者(氏名)	省エネ 太郎

捺印は代表者
の印と社印が
必要です

(印)

共同応募の場合は、応募される全ての事業者の書面と捺印が必要となります。
一枚に複数事業者をまとめても、事業者毎に書面を作成してもどちらでも結構です。

「代表者」は社長でなくても、部門長以上(本部長、工場長、プロジェクト責任者等)の管理職で結構です。
また、様式2と同一の方でお願いします。

2019年度 省エネ大賞

省エネ事例部門 省エネルギー活動の分類

事業者名 株式会社〇〇〇 △△△工場

応募テーマ名 〇〇〇による〇〇〇省エネ活動の展開

1. テーマ分野

※テーマ分野は応募企業の業種ではなく、省エネ活動を取り組んだ設備等が属する分野を選び、「〇」を記載して下さい。「その他」を選んだ場合は（ ）内に分野を記載して下さい。
※複数選択可

テーマ分野	選択	テーマ分野	選択
①CGO ※・企業等分野		⑤支援サービス分野	
②産業分野	○	⑥共同実施分野	
③業務分野		⑦節電分野	
④輸送分野		⑧小集団活動分野	
		⑨その他（ ）	

※CGO: Chief Green Officerの略。経営の視点から、事業全体を俯瞰しながら、省エネルギー活動・環境管理を統括する責任者（役員等）を指す。

2. 取り組み内容分類

それぞれ対象となる分類を選び、「〇」を記載して下さい。分類上複数の取り組みを実施した場合は、省エネ効果の高いもの等、最もあてはまるもの（2箇所まで記載可）に「〇」を記載して下さい。「その他の取り組み」を選んだ場合は（ ）内に取り組み内容を具体的に記載して下さい。

最もあてはまるもの2箇所まで記載可。

番号	主たる取り組み分類	選択
1	生産プロセス等における取り組み 例：生産プロセスや生産技術等の改善、見直し等	○
2	エネルギー供給設備や加熱、冷却、排熱回収の取り組み 例：ボイラ設備、熱供給設備、発電設備等における改善、加熱・冷却技術に関する改善や排熱回収にかかる改善等	
3	電動力応用設備における取り組み 例：コンプレッサ、ブローア、ファン、ポンプ設備、電動機のインバータ化、台数制御等、制御方法の改善、見直し等	○
4	空調、照明、建物関連の取り組み 例：空調、照明関連設備の高効率機器への転換や運用による取り組み、窓の遮熱や天井の断熱、建物関連の取り組み等	
5	エネマネ・組織全体としての取り組み 例：エネルギーマネジメント等を主とした取り組みや会社等組織全体としての取り組み	
6	他社連携、ESCO、サードパーティー等活用による取り組み 例：他社との連携による省エネ推進、面的活用による地域での取り組みやESCO、サードパーティー等を活用した省エネ推進	
7	その他の取り組み（ ）	

記入例（本事例はフィクションです。）

様式 6 - 1

事務局記載

[Redacted box]

- ・フォントは「MS ゴシック」10ポイント以上。
- ・英数字は原則半角とする。

2019年度 省エネ大賞

省エネ事例部門（小集団活動分野以外）応募内容説明書

1. サマリー

応募テーマ名： _____ による 省エネ活動の展開 _____

応募者（企業名、団体名等）： 株式会社 _____ 工場 _____

中小企業者： _____

企業名、工場名、グループ名など。共同応募の場合はすべての名称を列記ください。

中小企業者とは、中小企業基本法第2条に規定する法人又は個人事業者

1.1 企業や組織、工場・事業場の概要

業 種	自動車部品製造業
主要製品・サービス等	自動車用のメーター類、 ○用センサ
<当該企業や組織、工場・事業場の概要>	
1) 事業所は1995年に操業を開始。2001年に第2工場を同町内に増設した。	
2) 当事業所の従業員（520名・臨時・派遣数含める。2017年3月末現在）	
3) 当工場は、第一種エネルギー管理指定工場に該当する。（原油換算	

業種の分類は、総務省の「日本標準産業分類（平成25年10月改訂）」により記載すること。

応募案件の「キーワード」を3～5つ記入してください。

1.2 応募内容の全体概要

（キーワード：○○エコ活動、見える化、省エネパトロール、○○技術）

自動車部品工場の 製造ラインにおいて、 の抜本的な見直しにより省エネを達成した事例。第二工場増設を機に、工場長をトップにエネルギー使用量の見える化、・・・および管理標準の作成、溶解炉（2設備）コンプレッサー（6台）のエネルギー使用量分析の実施・・・など省エネ活動を開始。 年にはエネルギー管理システム（FEMS）を導入し、翌年にはコンプレッサーの2台にINV導入、台数制御実施。溶解炉のエネルギー原単位向上対策に、保温、運用方法改善を実施。あわせて、・・・および・・・も実施した結果、これらの改善でエネルギー削減量（原油換算）○%、エネルギー原単位（原油換算）○kL/年の削減を実現した。

- ・応募内容全体が簡潔に分かるよう、350字程度にまとめて下さい。（文字数厳守）
 - ・主な省エネの取り組みの内容とその成果（省エネ実績）について、端的に示すよう心掛けて下さい。
 - ・図表を使用せず、文字だけで作成して下さい。
 - ・エネルギーの削減量は原油換算を中心に記載して下さい。
- なお、事業所全体の総エネルギー消費量に対する省エネルギー量の割合も忘れずに記載下さい。

構成例：要約 具体的取組み 省エネ成果

公開されている受賞理由を参考にしてください。

<https://www.eccj.or.jp/bigaward/winner18/pdf/e-all.pdf>

記入例（本事例はフィクションです。）

2. 詳細説明

2.1 省エネ活動の背景、経緯（これまでの取組み）、目的等

(1) 背景

省エネ活動開始にいたった状況等を記載。

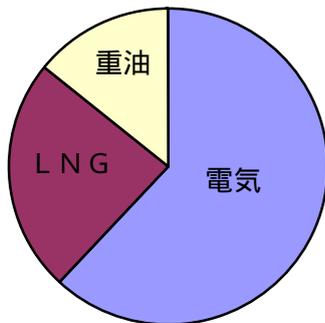
工場では、.....によって製造出荷台数が大幅に減少、固定エネルギーの比率が上昇し、エネルギー原単位が大幅に悪化した。また、近年の電気料金高騰により国内生産における採算性が低下し、.....の事態となった。さらに、新興国における技術力の向上など、業界の市場環境は厳しさを増している。

(2) 目的

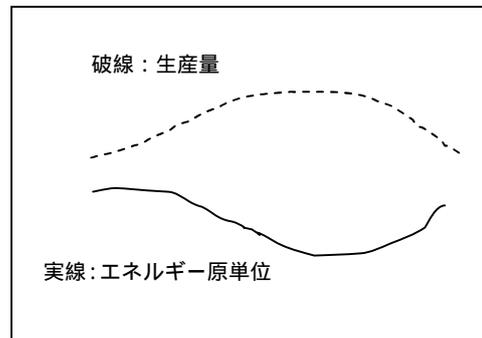
現状分析による課題抽出、目指した目的を簡潔に示す。

工場のエネルギー消費割合を図に示す。電力消費量が%と高く、.....生産量減少によりエネルギー原単位が悪化したため、工場長のトップダウン指示により、全製造ラインの見直し作業を展開し、生産変動に影響されない新たな製造ライン再構築を目的とした。

エネルギー消費割合



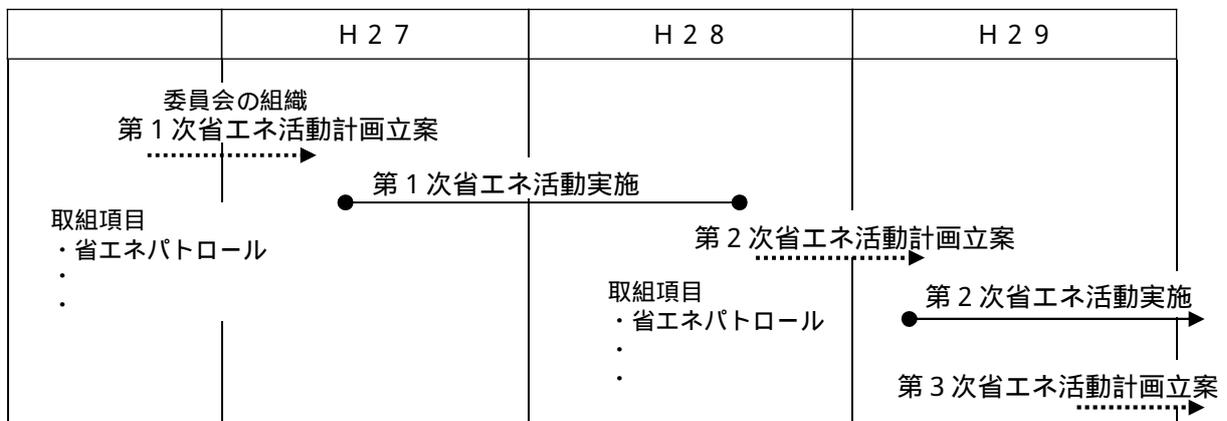
エネルギー原単位と生産量



(3) 経緯

いつからどのような活動を行っているのか記載。

省エネ活動として「エコ活動」を年月より開始。この省エネ活動を加速するため工場長を委員長とする委員会を年月に組織した。この委員会で省エネ活動計画を立案し、工場全体で実施している。あわせて、.....を行い委員会に提案を行うとともに、省エネ意識の啓発に力を入れている。



記入例（本事例はフィクションです。）

2.2 エネルギー管理体制

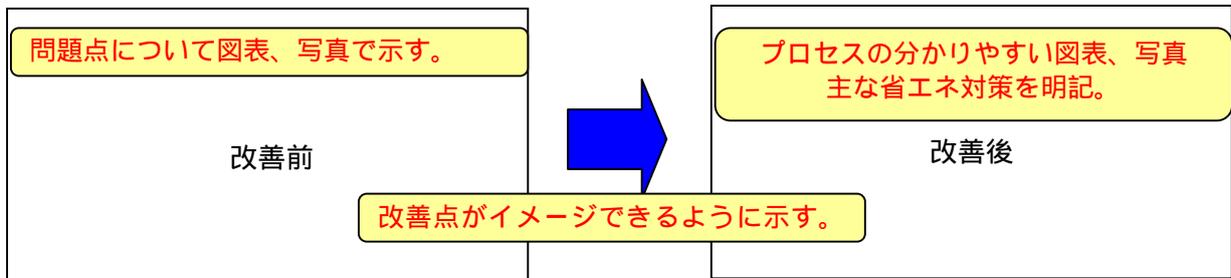
当社では、省エネ活動として「 エコ活動」を 年 月より全社一丸となって取り組んでいる。
 省エネ活動の推進を加速するため、 委員会と省エネパトロールを開催し、P D C Aサイクルを回して
 いる。



- ・省エネ目標、中長期計画
- ・改善実施、現場パトロール
- ・実績把握、進捗管理
- ・次年度の課題抽出
- ・本活動により、生産変動に関係なく確実にエネルギー原単位の低減を達成。

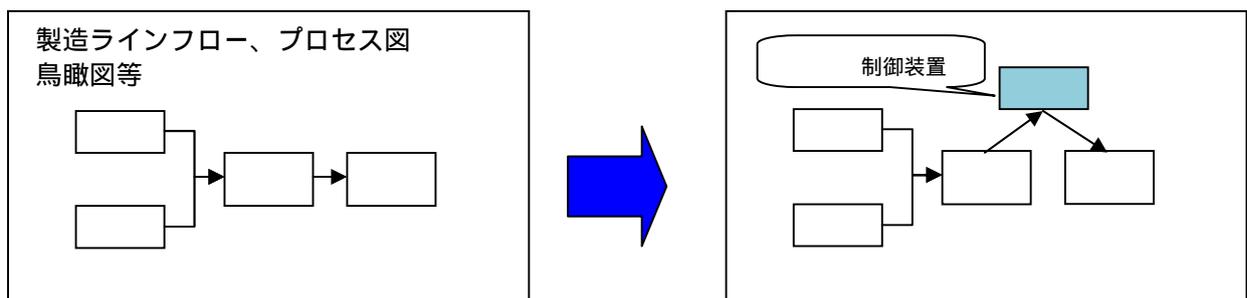
2.3 主な実施内容（省エネ取り組み内容）と成果

年 4 月から翌年 3 月にかけて、生産変動に強い省エネ型 製造ラインの再構築を実施。



(1) 取組んだ省エネ対策

制御装置の導入（投資額 万円 回収年数 年）
 ・ ・ ・ラインに 制御装置を導入することで、従来機と比較し kWh の電力使用量（原油換算 KL）を削減することができた。



技術の開発（特許 件 出願済）
 ラインにおける ・ ・ ・ ・ ・ 工程において、 ・ ・ ・ ・ ・ が課題となっていた。この課題を解決するために ・ ・ ・ ・ ・ を開発した。これにより、 ・ ・ ・ ・ ・ の効率的な管理が可能となり、原油換算で年間 KL の削減に成功した。

センサーによる「見える化」作戦の展開（ 新聞で紹介）
 従来は1箇所の設置に留まっていた センサーを 箇所と設置個所を大幅に増やした。これにより工場内のきめ細かなエネルギー把握が可能となり、エネルギーロスの発見が容易となった結果、

記入例（本事例はフィクションです。）

効果的な省エネ施策を実施できるようになった。また、新たな省エネ活動を行う際の参考になるなど高い効果があった。

活動を紹介する図表、写真等があれば示して下さい。

電力のムリ・ムダ抽出パトロール
 毎週 曜日に実施している電力のムリ・ムダ抽出パトロールにおいて、当初は不要な点灯箇所や設備の運転が指摘されたが、改善された。各担当者が輪番でパトロールを行うことで・・・の効果が得られた。また、パトロールの際に気付いた点を・・・により共有し、効果が高いと考えられるものについては 委員会に提案を行い、工場全体の実施施策として採択された。



(件提案、 件採択)

(2) 省エネルギーの達成状況のまとめ

今回の省エネ活動による工場全体での省エネ量は下記のとおり。

【当該プロセスの省エネルギーの達成状況】

(設備導入前と比較)

- ・対象設備のエネルギーの削減
 削減量 (原油換算) kL
 削減率 %
- ・対象設備のエネルギー原単位の削減
 削減量 (原油換算) kL/
 削減率 %
- ・CO₂削減量 t

【取組み項目毎の省エネルギーの達成状況】

- 制御装置の導入：
 電力使用量の削減量 原油換算 kL
- 技術の開発：
 蒸気の削減量 原油換算 kL
- センサーの導入：
 灯油の削減量 原油換算 kL

【事業所全体の省エネルギーの達成状況】

- ・事業所全体のエネルギーの削減
 削減量 (原油換算) kL
 削減率 %
- ・事業所全体のエネルギー原単位の削減
 削減量 (原油換算) kL/
 削減率 %
- ・事業所全体のCO₂の削減量 t

【当該プロセスの経済効果】

- ・省エネメリット 万円
- ・投資額 万円
- ・回収年数 年

省エネ量は、できる限り原油換算量を中心に、定量的に示す。

非公開

投資額については非公開でお願いします

非公開箇所は、場所と範囲を明確にし、「非公開」のアイコンをつける等によって明示。

同業種との比較で優れている点を、定量的に示してもよい。費用対効果に優れていることも定量的に示す。

2.4 今後の課題と取組み計画

従来、ライン 工程の・・・については、改善が困難と想定されていた。しかし、今回得た知見を応用することで改善できる見込みがあることから、・・・技術について改良を行い、ライン 工程へも展開して行きたい。

【計画】

- ～ 年 月 (目途) ・・・・技術の改良
- 年 月 委員会へ付議
- 年 月 ライン 工程での試験運用
- 年 月 ライン 工程での本格運用

記入例（本事例はフィクションです。）

3. 審査評価項目毎のまとめ

箇条書きでポイントとなる内容を分かりやすく示す。

3.1 先進性・独創性

従来のお取り組み、発想と大きく異なる点は

- ・
- ・

現状把握方法、問題点の分析、お取り組みの内容等が省エネ法判断基準に該当項目に準じて、先進的で独創性に富んだものであるという点を示す。新たな視点や新規に開発・改善した技術の内容等

3.2 省エネルギー性

- ・ 事業所全体のエネルギーの削減
削減量（原油換算） kL
削減率 %
- ・ 事業所全体のエネルギー原単位の削減
削減量（原油換算） kL/
削減率 %
- ・ 事業所全体のCO₂の削減量 t

省エネ量は、できる限り原油換算量を中心に、定量的に示す。

削減率は、事業場全体の削減が対象設備のみの削減が明確に記載。

同業種との比較で優れている点を、定量的に示してもよい。費用対効果に優れていることも定量的に示す。

3.3 汎用性・波及性

- ・ 当該プロセスについて、業種を問わず幅広く応用展開できる
- ・ 省エネ活動の進め方は他事業のヒントとなり幅広く横展開できるものとする

【波及により期待される効果（年間）】

- ・ 事業所 基実施 kL
- ・ 当社全体 基に波及 kL
- ・ 国内同業他社の %に波及
基 kL
- ・ 費用対効果 単純回収年 年
(合理化金額 円)

取組んだ省エネ活動のうち、特に汎用性・波及性の観点から効果があったものについて、他業種などへ活用できる可能性や活用実績等について記入のこと。

自社内あるいは自社グループへの適用可能性だけでなく、定量的な波及効果についても極力記載のこと。

3.4 改善持続性

- ・ 全社をあげて省エネ活動を推進するため、年度より省エネ事務局を設置。
- ・ 各部代表、外部アドバイザー等からなる委員会を定期的に行い、省エネ活動計画を立案した。
- ・ 平成年度より第1次省エネ活動を実施し、成果を挙げた。現在は、第2次省エネ活動実施中である。

省エネ活動の取組期間と主な内容を整理し、今後の中長期的な計画について示して下さい。また、省エネ活動が継続的に今後も遂行されるための人材教育（外部・内部への研修状況）、啓蒙活動、エネルギー管理体制、ベンチマークの達成への工夫点等を示すこと。

記入例（本事例はフィクションです。）

4. その他（受賞歴、省エネ大賞応募歴、外部発表等）

(1) 受賞歴

- ・一般社団法人 工業会 技術賞（20 年）「 の省エネ技術」
- ・〇〇経済新報社 賞（2010年）「〇〇による最新省エネ技術」

様々な表彰制度での受賞歴を記載ください。

(2) 省エネ大賞応募歴

- ・平成27年度省エネ大賞 審査委員会特別賞受賞（応募テーマ名：〇〇による省エネ取）
- ・平成23年度省エネ大賞応募（応募テーマ名：〇〇導入による省エネ）

「省エネ大賞」への応募歴を記載下さい。

(3) 特許、実用新案

- ・ の制御方法（出願番号

過去（数年）の省エネ大賞・事例部門への応募について記載ください。

(4) 文献等

- ・一般社団法人 学会誌（20 年 号P ）「 の省エネ性について」

(5) 新聞発表

- ・ 経済新聞（20 年 月 日掲載）「 省エネ技術の開発」

< 記載の注意点 >

- ・ 1. サマリーは1ページ以内、 2. 詳細説明は、7ページ以内、
3. 審査評価項目毎のまとめ と 4. その他（受賞歴、省エネ大賞応募歴、外部発表等）を
あわせて、2ページ以内です。
- ・ 評価のポイントは、
先進性・独創性 省エネルギー性 汎用性・波及性 改善持続性
特に 省エネルギー性を重視しますので、可能な限り定量的に示して下さい。
すべての項目を必ず記載下さい。各項目の配分比率は自由です。
- ・ 応募内容説明書は、資料集やホームページ等で公開することがありますので、非公開とした
い部分は、非公開 マークを付する等、明記して下さい。

記入例（本事例はフィクションです）

様式 6-2

事務局記載

- ・フォントは「MS ゴシック」10ポイント以上を使用。
- ・英数字は原則半角とする。

2019 年度 省エネ大賞

省エネ事例部門（小集団活動分野） 応募内容説明書

1. サマリー（1 ページ以内）

実際のサークル名称を記載下さい。

応募テーマ名：町工場における製品の品質向上とエネルギーコスト削減の両

応募者（企業名、団体名等）：株式会社〇〇〇〇 ▲▲サークル

中小企業者：

中小企業者とは、中小企業基本法第2条に規定する法人又は個人事業者

1.1 企業や組織、工場・事業場の概要

業種の分類は、総務省の「日本標準産業分類（平成25年10月改訂）」により記載すること。

業 種	プラスチック製品製造業
主要製品・サービス等	プラスチック／金属試作品、射出成型金型等

<当該企業や組織、工場・事業場の概要>

- 1) 1970 年創業。2000 年に■■課を含む第二工場を同敷地内に増設。
- 2) 従業員数：20 名（事務員 2 名、工員 18 名）（2019 年 3 月現在）うち、▲▲サークル：6 名
- 3) 設備概要：工場 〇〇〇〇 5 基、△△ 3 基、◇◇ 2 基、事務所棟
- 4) ▲▲サークルの主作業：工場管理、事務作業

1.2 応募内容の全体概要

応募案件の「キーワード」を 3～5 つ記入してください。

（キーワード： 作業工程見直し、全員参加、省エネ意識向上）

プラスチック製品の品質向上を目指し、工場管理、事務処理作業において投資を伴わない運用改善を 6 名で構成する▲▲サークルで実施した結果、エネルギーコストを低減でき省エネ活動継続につながった事例。主な取り組み活動は、①エネルギー使用状況の見える化、②無駄削減のためのアイデア出し、③・・・。

本取り組みによる省エネ効果は、エネルギーコスト〇〇万円／年削減、エネルギー使用量（原油換算）□□kL／年削減、となった。現在は工場に含めた全員が本活動に参加して何らかの担当を経験し、作業時間の短縮に貢献している。

省エネ

- ・ 応募内容全体が簡潔に分かるよう、350 字程度にまとめて下さい。（文字数厳守）
- ・ 主な省エネの取り組みの内容とその成果（省エネ実績）について、端的に示すよう心掛けて下さい。
- ・ 図表を使用せず、文字だけで作成して下さい。
- ・ エネルギーの削減量は原油換算を中心に記載して下さい。

※構成例：要約→具体的取り組み→省エネ成果

※公開されている受賞理由を参考にしてください。

<https://www.eccj.or.jp/bigaward/winner18/pdf/e-all.pdf>

2. 詳細説明

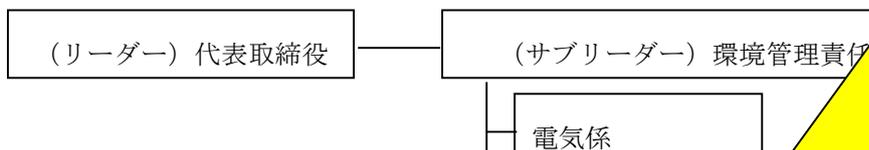
省エネ活動の背景、経緯（これまでの取り組み等）、課題の明確さ、課題の重要度等について記載して下さい。

1) テーマ選定理由

これまで当社では、環境・省エネを特段意識することなく品質第一の職人気質のベテラン工員を中心に各人が担当する受注製品などものづくりを進めてきた。5年前より社長交代に伴い環境に配慮した企業活動を目指すも、工員全員からの積極的な支持を得られずにいた。当社の設備稼働率は週単位で変動があり、製品の品質向上はもちろんのこと、設備の維持管理や整備費に年間〇〇万円を要しており、近年のエネルギー価格高騰により工場・事務所棟全体の管理方法見直しが必要という認識があった。そのような中、当サークルの1名が外部の省エネ〇〇事例発表会に参加し、他業種ではあるが当社においても適用できそうな案件があったこと、無料の省エネ診断が受診できることなど具体的な活動手法情報が得られたことから、3年前より趣旨に賛同する構成員6名で▲▲サークルを結成、活動を開始した。ベテラン工員の支持を得られるよう、製品の品質向上を第一の目標に掲げエネルギーコストの削減を目指した。

2) 活動内容及び創意工夫点など（体制、独創性、汎用性・波及性、改善持続性等）

【活動体制】2016年より以下の体制を構築し、年度ごとに目標を定めPDCAを



省エネ活動内容を、エネルギー使用の現状や分析、問題点の把握、目標設定、講じた対策などをわかりやすく記載下さい。また活動を行うための体制や組織なども記載いただくとともに、活動全般に亘り工夫した点や省エネ意識の向上など付帯的な波及効果などを記入下さい。

- ・省エネ目標 ・改善実施
- ・実績把握・進捗管理
- ・次年度の課題抽出
- ・省エネパトロール など

これらを実施した活動についての
写真・図表等

以下はあくまで記載例です。

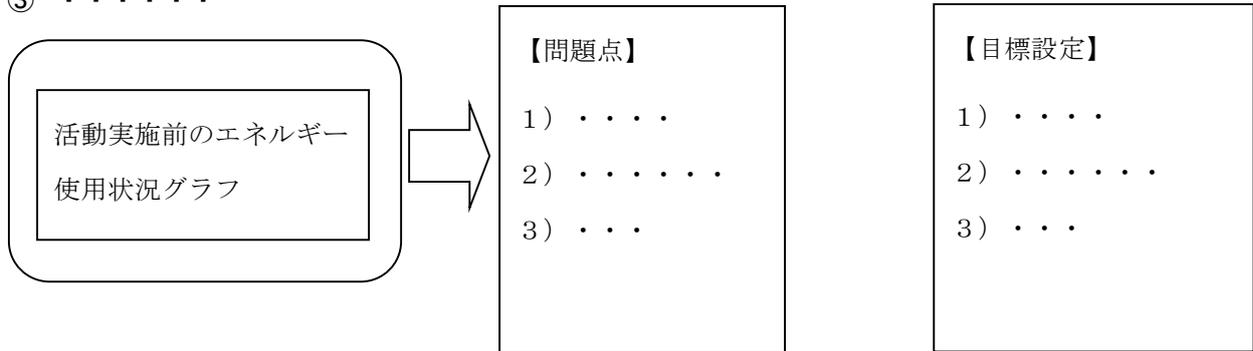
【活動内容とその特徴】

他業種のエネルギーコスト削減事例をヒントに自社の作業工程・管理方法を見直し、サークル構成員全員で実態調査→専門家へのヒアリング→運用改善計画策定→実施→検証→他の設備に展開→検証などについて取り組んだ。本取り組みの主な特徴は以下の通り。

- ① 電力、水道、廃棄物などについてエネルギー使用状況を調査。現状の使用状況の見える化を、季節・時間ごとなど必要に応じたグラフ化を行い実施。

② 見える化によって得られた数字に基づき、具体的な削減目標と活動計画を全員で話し合って作成。活動状況報告書はサブリーダーがチェック。3か月に1度報告会を兼ねた意見交換会を開催。記録は全て事務所棟の食堂など皆が集まる場所へ掲示。担当する係は年度毎に変更。

③



【活動内容】 初年度（2016年度）に計画策定、2017年度より段階的に実施。

年度	活動内容	活動の効果
2016年度	省エネ診断受診、環境・省エネ関係のセミナー参加・情報収集、エネルギー使用状況の見える化、省エネ目標設定と活動計画の作成、	自社のエネルギー使用状況の把握・無駄の発見を共有、無駄撲滅のアイデア出し
2017年度	2016年度の活動計画の基に以下を実施 圧縮エアの改善対策：○○○○、▽▽▽ 空調効率改善対策：○○○○、▽▽	エアの無駄遣い削減、電力削減
2018年度	2017年度の活動継続に加え以下を実施 待機電力削減（PCから生産設備まで）	エネルギーコスト削減、全員の省エネ・環境意識向上

担当する部門の省エネ量（必須）、原単位推移または原単位削減量、CO₂削減量等を明記して下さい。

3) 省エネ成果

2年間における活動内容の省エネ成果は以下の通り。

対策内容	活動前	活動後	省エネ成果合計
圧縮エアの改善	○○KL	○○KL	○○KL（従来比●%削減）
空調効率改善	○○KL	○○KL	○○KL（従来比●%削減）
待機電力	○○KL	○○KL	○○KL（従来比●%削減）
合計	○○KL	○○KL	○○KL（従来比●%削減）

【本取り組みにおける付帯効果】

- ・2016年の活動開始時当初は趣旨に賛同した6名がサークル活動として始めたものだが、見える化・情報共有・意見交換、などによりコミュニケーションが増え、現在は工員全員が参加するまでに広がった。また、年度ごとの担当変更により省エネに関する経験値が上がり、資源を大切にしながらモノづくりを行う姿勢が向上した。
- ・今年度は、昨年までの結果を元に省エネ計画を策定、実行中。また、当該工程の省エネ活動以外に、不要個所の消灯、・・・など他のことへも意識を向けることができるようになり、社員全員の省エネ意識が向上した。
- ・当社の活動内容は、投資を伴わない範囲から始めており経営層の合意を得られやすく業種を問わず幅広く展開が可能と考える。

3. その他（省エネ大賞応募履歴、受賞歴、外部発表等）

- ・省エネ大賞応募履歴：なし
- ・文献等：一般社団法人〇〇〇学会誌（2017年〇月号 P〇〇）「品質向上とエネルギーコスト削減について」

・応募内容説明書は、資料集やホームページ等で公開することがありますので、非公開としたい部分は、場所と範囲を明確にし、
「非公開」のアイコンをつける等、明記して下さい。